



橋本健一郎氏
九月前半は、仏ソシエテ
ジエナラルのトレーダーが銅
の供給過剰へのコメントをし
たこと、LME銅在庫が十
五日時点で二〇万t↓三五
万tとお盆明け以降七五%増加などのマイナス
材料もあつたが、中国國家統計局の八月のPM
Iが予想の四九・八を上回る五〇・四と一四年
末以来の高水準だった事、OPEC非公式協議
での増産凍結に向けた期待感や、引き続き米の
利上げ観測後退によるドル安、原油高を好感し
LME銅相場はUP、九月十六日時点で四、
七二七ドル(セツル)と月初価格より一二五ドル
UPの前半締めとなつた。

後半は、米司法省がドイツ銀行に對して一四
B\$(一・四兆円)の和解金支払いを要求した事
による同行のデフォルト懸念、中国が国慶節(十
月一日(土)～一〇月七日(金))に入りする事が
らの警戒感などのマイナス材料もあつたが、英中
銀副総裁の金融緩和に関する発言やLME錫
が二〇力月ぶりの高値を付けたこと、LME鉛
が世界的な鉱山閉鎖や生産調整をうけて二〇
一三年以来の高値になつた事、OPECの非公
式会合で増産凍結が合意された事を好感しU
P、十月四日現在、後半スタート価格から八四
ドルUPの四、八〇七ドル。銅建値五三万円と
なつた。

◆月間のドル/円レート (TTS)

一〇四・三七→一〇一・九八(円)

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると自動車生産台数は
前年比八・八%増の六五万八、五一一台であつ
た。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車
販売台数(軽除く)は前年比三・七%増の三二万
七、〇四八台。

◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数
は前年比二・五%増の八万二、二四二戸であつた。

◆貿易関連指標

財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電
気銅が一六・一%減の五万三、四六〇t、スク
ラップが四一・三%増の一萬七、三八二t。
輸入

t、輸入は電気銅が前年比〇・四%減の一、一〇
t、スクラップが六一%増の一萬二、〇六二
t。

銅相場 の焦点 中国経済やドイツ銀の動向が左右

橋本金属 橋本健一郎氏リポート①
・アルミ

橋本健一郎氏

■前月の国内指標

日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報に
よれば、前年比一一・四%増の六万〇、七〇五
t)。

日本電線工業会発表の出荷速報(推定)による
と、銅電線出荷量は前年比一%増の五万三、七
〇〇tであった。

■概況

【自動車生産】
八月の四輪車生産台数は六五万八、五一
台で、前年同月の六〇万五、〇七〇台に比べて
八・八%の増加となり、三カ月ぶりに前年同月
を上回つた。

輸出は前年同月比一・五%の増加。(実績)

【自動車販売】

九月の国内自動車販売台数(軽は除く)は三
一万七、〇四八台で前年比三・七%増。二カ月
連続プラス。うち、乗用車三・八%増、貨物一・
四%増、バス一九・三%増。

【住宅着工数】

平成二十八年八月の住宅着工戸数は八
万二、二四二戸で、前年同月比で二・五%
増となつた。また、季節調整済年率換算値
では九五・六万戸(前月比四・九%減)となつた。

・住宅着工の動向については、前年同月比

で二カ月連続の増加となつておらず、利用関係
別にみると、前年同月比で持家、貸家は増、
分譲住宅は減となつた。

(持家)

前年同月比では七カ月連続の増加(前年同
月比四・三%増、季節調整値の前月比では二・
一%減)。

【貸家】

前年同月比では一〇カ月連続の増加(前年同
月比九・九%増、季節調整値の前月比では
一・一%減)。

(分譲住宅)

前年同月比では先月の増加から再びの減少
(前年同月比一二・四%減)。

・分譲マンション

前年同月比では先月の増加から再びの減少
(前年同月比三三一・一%減)。

・分譲一戸建住宅

前年同月比では一〇カ月連続の増加(前年
同月比五・九%増)。

(六面へ続く)

(四面より続く)

〔伸銅品生産〕

伸銅品生産は前年比一一・四%増の六万〇、七〇五tと四力月連続増加。このうち、内需は五万〇、八九九tで一二%増と一力月振りプラス、輸出は九、八〇六tで八%増と三力月連続プラス。品種別では、銅条は一万八、五五〇tで一二・四%増と四力月連続プラス、黃銅棒は一万四、九五〇tで一一・八%増と四力月連続プラス。

〔電線〕

前年比一%増の五万三、七〇〇t。うち国内は三・三%増、輸出が四五・九%減。出荷部門別では、通信一一・九%増、電力九・九%増、電気機械一・一%減、自動車一三・八%増、建設・電販〇・二%減、その他内需一七・四%増。

〔輸出〕電気銅輸出が一六・一%減の五万三、四六〇t。銅スクラップは四二・三%増の一萬七、三八二t。

〔輸入〕

電気銅が〇・四%減の一、一〇二t。スクラップは六一%増の一萬二、〇六二t。

〔見通し〕

・自動車は生産が八・八%増。九月の国内販売台数が前年比三・七%増。生産が三力月ぶりプラス、販売が二力月連続プラス。生産が大幅増。今後の動向に期待。

・住宅着工の動向については、前年同月比で二力月連続の増加となつており、利用関係別にみると、前年同月比で持家、貸家は増、分譲住宅は減となつた。

・引き続き、今後の動向をしつかりと注視していく必要がある。

・伸銅品は四力月連続プラスの前年比一・四%増。需要の多い銅条が四力月連続プラス。黃銅棒も四力月連続プラス、輸出が三力月連続プラス。黃銅棒は四力月連続プラスも、夏季休業の影響で一万五千t台を割り込む。

・電線は輸出が四五・九%減と大幅減。用途の多い自動車は一二・八%増。

・銅輸入は発生難からスクラップが増加した。

〔スクラップ需給予想〕

流通在庫は銅建値が五三万円で数週間張り付いていることや銅関連の生産増からのスクラップの発生増加を受けて、かなり売り込みがあつたのではないか。ただ今後の売り込みは円高による影響で安定的な発生

は期待できない。

自動車生産、販売や伸銅品、電線など好調な指標が出ているが、円高により生産増加に伴う需要増は未定。

〔価格・為替予想〕

今日は、國慶節明けの中国経済とドイツ銀デフォルト懸念に左右される。

國慶節明けの中国に関しては、やはり現在の習政権で有効な景気対策。金融緩和策などを打つとは思えず、鉱工業生産などを初めとする経済指標の一喜一憂する状態が続くのではないか。

ドイツ銀デフォルト懸念に関しては、米司法省からの和解金一・四兆円の他、デリバティブ商品を七五兆分も持つているとの事、これに関して独メルケル首相は救済しないスタンスがある一方でダイムラーやミュンヘン再保険、シーメンス、ドイツ取引所を含むDAX指数構成企業の首脳らは独紙フランクフルター・アルゲマイネ(FAZ)、日曜版とのインタビュード独銀支持の結束を表明するなどの報道もあり、即破綻とはならないのではないか?

それらを踏まえた十月の銅価格は、國慶節明けの中国で効果的な金融政策or景気対策が行われ、独銀に関して救済or支持などの報道がなされた場合、四、九〇〇ドルを予測。いずれかの場合は四、七五〇ドル。下値はいずれの条件も達成できなかつた場合、七月安値の四、六〇〇ドル。

為替は米大統領選におけるクリントン氏VSトランプ氏のTV討論会のCNNの調査でクリントン氏六二%、トランプ氏二七%と、クリントン氏の優勢が伝わった事によるドル高圧力もあるものの、金融緩和の年内後退からの円高圧力もあり、現在の一〇一円近辺からほぼ変わらすではないか? それらを踏まえ予測は、上値は年内の米金融引き締め観測がこのまま後退していく、大統領候補予測にトランプが有利な報道がなされた場合なかつた場合、一〇〇円台(TM)を予測。両条件が揃わなかつた場合、現状の一〇一円を予測。

銅建値に関しては五〇〇~五四〇円程度と予測している。

COMEX銅在庫

四日 七〇、五七五トン

五日 七〇、五七五トン
変わらず